

産業別四半期見通し調査結果 (2016年7-9月期見通し)

＜製造業は横ばい基調続く、観光業は夏季行楽シーズンの集客に期待＞

■ 県内産業天気図

◇ 2016年4-6月期の現況

- 全17業種中、「薄日（順調）」が2業種、「曇り（普通）」が12業種、「小雨（低調）」が3業種となった。

◇ 2016年7-9月期の見通し

- 全17業種中、「薄日（順調）」が2業種、「曇り（普通）」が13業種、「小雨（低調）」が2業種となり、4-6月期と比べ1業種が小雨から曇りに変わる見込み。

天気図記号	2016年 1-3月期	4-6月期現況	7-9月期見通し
 晴れ（好調）	0 業種	0 業種	0 業種
 薄日（順調）	1 業種	2 業種	2 業種
 曇り（普通）	13 業種	12 業種	13 業種
 小雨（低調）	3 業種	3 業種	2 業種
 雨（不調）	0 業種	0 業種	0 業種

■ 7-9月期見通しのポイント

- 製造業のうち「工作機械」をはじめとする機械関連の業種では、国内や北米等の先進国向けで底堅く推移するとみられ、パソコン向けなどで苦戦が続く「電子部品・デバイス」を除き「曇り（普通）」の見通しとなっている。ただ、輸出に関連する企業も少なくなく、英国のEU離脱の問題など先行きへの不透明感が増す中で、さらなる円高の進展によっては収益面での悪化が懸念される。
- 夏季行楽シーズンを迎える「旅客」と「ホテル・旅館」は、NHK大河ドラマ「真田丸」の集客効果が続いていることや、「山の日」新設に伴う山岳観光への注目もあって、ともに「薄日（順調）」を見込む。

照 会 先




















































一般財団法人 長野経済研究所
調査部（担当：条井、庄田）

TEL 026-224-0501



<産業別天気図一覧(17業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。

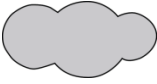
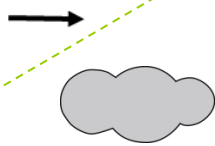
■調査期間：2016年6月中旬～16年7月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業17業種の143社

業 種	前期 (1-3月期)	今期 (4-6月期)	来期 (7-9月期)
工 作 機 械			→ 
半 導 体 製 造 装 置			→ 
産 業 用 機 器			→ 
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス			→ 
自 動 車 部 品			→ 
光 学 ・ 計 器			↗ 
プ ラ ス チ ッ ク 製 品			→ 
飲 料 製 造			↗ 
食 料 品 製 造			→ 
機 械 器 具 卸			→ 
大 型 小 売			→ 
自 動 車 販 売			↗ 
公 共 工 事			→ 
民 間 工 事			→ 
旅 客			→ 
貨 物			↘ 
ホ テ ル ・ 旅 館			→ 


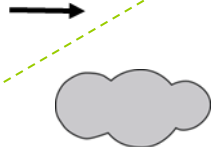
当研究所の注目業種

	7-9月期見通しの注目ポイント
<p>旅客</p> 	<ul style="list-style-type: none">▶ 好調な「真田丸」の集客効果、夏場の避暑客の入込期待に加え、本年新設される「山の日」(8/11)をきっかけに山岳観光へ注目が集まることから、旅客需要は堅調な伸びが期待される。ただ、北陸新幹線の利用は安定推移するも、接続する鉄道やバスなどへの利用は限定的とみられる。▶ 長野市、松本市で大型イベントが予定されているが、シャトルバス利用が多く、タクシー利用は一部にとどまる見込み。▶ また、足元の円高基調の持続が、外国人観光客の伸び鈍化や、日本人旅行客の国内旅行から海外旅行へのシフトにつながる懸念もある。
<p>ホテル・旅館</p> 	<ul style="list-style-type: none">▶ 夏季行楽シーズンを迎え、観光客は都市部・観光地ともに順調に推移する見通し。「真田丸」の集客効果により関係地域では引き続き好調な宿泊利用が見込まれることに加え、「山の日」の制定や各地で開催されるイベント等に伴い、宿泊利用の伸びが期待される地域もある。▶ 一方で、円高基調にある中、旅客同様に外国人観光客への影響や国内旅行から海外旅行へのシフトが懸念される。


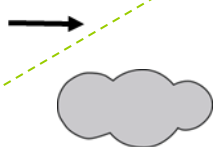
工作機械 : 自動車関連向けを中心に底堅い需要見込む

<p>現況</p>	<p>国内は、政府の投資促進策である「ものづくりサービス補助金」の採択を待つ買い控えの動きもあり、受注が伸び悩む場面もあったものの、自動車関連向けを中心に一定の底堅さはみられた。海外は、米国やメキシコの自動車産業が順調で、北米向けの機械需要は安定して推移した。欧州向けも、総じて堅調さがみられた。一方、アジアは、市場規模の大きい中国で設備投資の動きが鈍く、引き合いも機械の改造が中心で、新設の案件が少なかった。同様に、東南アジアの設備投資も少なく、機械需要は伸び悩んだ。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、設備投資に一服感の出ている企業があるものの、自動車関連向けを中心に底堅く推移する見込み。海外は、北米の自動車産業向けの機械需要は堅調とみられており、全体のけん引役として期待される。欧州向けも安定した推移が見込まれる。一方、アジアは、中国の設備投資や東南アジアの自動車生産に回復の兆しがみられないことから、引き続き低調に推移する見通し。英国のEU離脱の問題などにより為替が動いたことで先行きに対する不透明感が増しており、さらなる円高の進展によっては収益面での悪化が懸念される。</p>
	


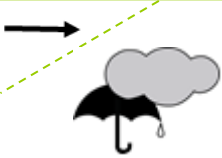
半導体製造装置 : 設備投資への慎重姿勢から装置需要は横ばいで推移

<p>現況</p>	<p>国内は、スマートフォン向けや車載用電子制御装置向けなど高品質な半導体製品の開発・製造に関わる装置需要に動きがみられた。また、材料の加工や表面処理等に関連する装置が堅調な一方で、最終的な組み立てや検査などに用いる装置は、設備の過剰感から弱い動きとなった。海外は、昨秋からの半導体の在庫調整が進んだが、新興国の景気減速の影響も続いており、受注環境は小幅な改善にとどまった。ただ、高度に軽薄短小化された半導体製品の製造に関わる一部の高付加価値装置などは堅調で、収益を下支えした。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、半導体の材料加工などの工程に関わる装置は堅調が続くも、組み立てや検査など最終工程に用いる装置を中心に、設備の過剰感から弱い動きとなる見通し。海外は、スマートフォン向けを中心とした半導体製造の増加により、台湾や中国などの一部で生産ラインの拡張なども期待されるが、総じて設備投資には慎重な見方が強く、装置需要は横ばいでの推移が見込まれる。一方、高精度で付加価値の高い半導体製造装置等については引き続き堅調な需要が見込まれ、収益確保に寄与する見通し。</p>
	


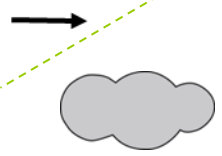
産業用機器 : 国内設備需要の一服感から鈍い動きが続く

<p>現況</p>	<p>車載関連機器は、国内はハイブリッド車向けの需要は堅調だったが、軽自動車向けでは燃費データを巡る不正等の影響で車載機メーカー間でも受注動向に差が生じた。海外は新車需要が旺盛な北米向けの受注が好調だった一方、新興国向けの受注は伸び悩んだ。産業用ロボットなどのFA機器や工作機械向けは、国内は生産設備への投資が鈍化し、海外は中国向けなどを中心に振るわなかった。水冷装置や空調機器などは一定の省エネニーズはあるが、設備投資への一服感から総じて動きは鈍かった。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は低調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>車載関連機器は、国内はハイブリッド車向けなどの需要が安定的に推移するも、軽自動車向けは全体的に弱含むとみられる。海外は北米向けで堅調な推移を見込むが、新興国向けは完成車需要の伸び悩みから弱い動きが続く見通し。産業用ロボットなどのFA機器や工作機械向け及び水冷装置や空調機器などは、国内は民間企業の設備投資需要に一服感がみられ、鈍い動きが続くとみられる。一方、海外は中国などで機械需要が振るわず、弱含む見通し。住設機器は、新設需要は低調な推移となるも、一定の更新需要が期待される。</p>
	


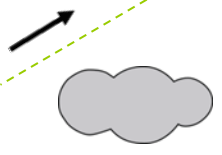
電子部品・デバイス : 自動車向け以外は力強さに欠ける、円高で収益悪化も

<p>現 況</p>	<p>自動車向けは、北米を中心に自動車販売が好調を維持しているのに加え、安全性を高める目的などで搭載する電子部品が増加しており、部品メーカーの受注も堅調に推移した。一方、</p>
	<p>スマートフォン向けは、一部のメーカーでは新製品対応で生産を増やす動きもみられたが全体的には力強さに欠け、またパソコン向けも減少が続いた。家電では、一部で新興国向けの空気清浄機などで増加の動きもみられたが、全体をけん引する商品は見当たらず低調な動きとなった。</p>
<p>見 通 し</p>	<p>自動車向けは、北米を中心に旺盛な完成車需要と、自動運転など機能拡充に向けた電子部品搭載量の増加から、堅調な推移が見込まれる。スマートフォン向けは、秋に次期モデルの販売が見込まれているところもあり、今期の後半に向けて徐々に受注が増加するとみられる。</p>
	<p>一方、パソコン向けは引き続き低調な動きとなる見込み。家電も市場をけん引する商品に乏しく、今後も減少が続くと予想される。なお、英国のEU離脱の影響などによってさらに円高が進む場合は、収益が悪化する懸念がある。</p>


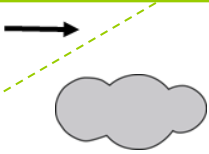
自動車部品 : 海外向けは底堅いものの、国内向けは弱含む

<p>現 況</p>	<p>国内は、モデルチェンジに伴う新型車需要により、底堅い受注が一部でみられた。しかし、燃費データを巡る不正で軽自動車の一部車種が生産停止となった影響などもあり、国内全体の市場は弱含む。海外は、北米向けは、堅調な推移がみられた。中国向けも、自動車取得税の減税策の効果などにより、底堅い動きとなった。東南アジア向けは、インドネシア、タイの需要が回復せず、低調に推移した。収益面は、円高基調にある為替相場が下押しした。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>国内は、引き続きモデルチェンジに伴う受注が下支えするとみられる。しかし、燃費問題の影響が残る軽自動車は低調な推移が見込まれることや、消費増税の再延期により、期待された駆け込み需要が発生しないことなどから、弱含む見通し。海外は、北米向けは引き続き堅調な推移が見込まれる。中国向けも安定した受注が続き、底堅い動きとなる見通し。一方、東南アジア向けは弱含むで推移するとみられる。また、収益環境に影響する円高の進行も懸念される。</p>
	


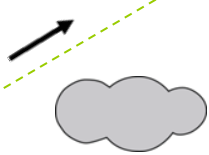
光学・計器 : スマートフォン向けの新製品の立ち上がりに期待

<p>現 況</p>	<p>光学機器関連のうち、産業用レンズは海外を中心に通信回線装置向けが堅調を維持し、自動車向けも底堅く推移した。プロジェクターでは高価格帯の製品に立ち上がりがみられた。一方、スマートフォン向けは前期から持ち直したものの力強さはみられず、半導体製造装置向けも中国の景気減速の影響などから振るわなかった。また、熊本地震で被災したメーカーからの部品供給が滞り、一時的に生産が減少したところもみられた。計器関連では、新興国経済の減速の影響などから建機及び産業機械向けの需要が減少、国内需要も低調な動きとなった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>光学機器関連のうち、産業用レンズは引き続き通信回線装置向けが堅調を維持する。自動車向けは北米を中心とした好調な完成車需要を背景に、堅調な受注が期待できる。また、高付加価値のプロジェクターに加え、ウェアラブルカメラなどの増加も見込まれる。半導体製造装置向けは横ばい、スマートフォンは秋の新製品に向けた立ち上がりに期待がかかる。計器関連は、建機及び産業機械向けで徐々に回復の見通し。ただし、今後、円高が進んだ場合、業績が悪化する懸念がある。</p>
	


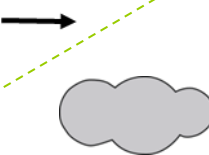
プラスチック製品 : 自動車関連は低調、化粧品向け容器は伸び鈍化の見込み

<p>現況</p>	<p>プラスチック製品は、品目により明暗がみられたが、総じてみれば生産はほぼ前年並みとなった。スマートフォン関連は、新機種向けの生産開始などにより生産水準が高まった。また、容器類は芳香剤などの成形品が伸び悩んだが、堅調なインバウンド需要を背景に化粧品向けが順調に推移した。一方、主力の自動車関連は、国内を中心に完成車需要が低調に推移したことなどから生産水準が引き下げられた。また、複写機のトナーケースなどOA・情報関連も受注減がみられた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車関連は、完成車の国内需要が弱含むとみられ、コネクタなどの生産は低調な推移が見込まれる。また、複写機向けなどのOA・情報関連は、市場に安定性はあるものの、新製品が乏しく生産水準は横ばい見通し。容器類は、芳香剤などの成形品で新製品の動きが鈍く生産の落ち込みが見込まれるほか、順調だった化粧品向けもインバウンド需要の落ち着きから伸びが鈍化するとみられる。一方、スマートフォン関連は、新機種向けの生産が引き続き順調に推移する見込み。</p>
	


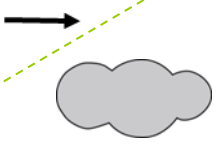
飲料製造 : 清涼飲料は猛暑による需要増加に期待

<p>現況</p>	<p>清涼飲料は、茶系飲料などの需要が底堅く推移し、全体の販売量は例年並みとなった。果実・野菜飲料に関しても、生産量は安定していた。清酒は、純米酒などの特定名称酒の需要に加え、地域の祭事需要もあり、全体的に堅調な動きとなった。ワインは、伊勢志摩サミットで使用された長野県産ワインに対する消費者の関心や評価が高まり、人気商品の在庫が品薄になる業者もみられた。飲料業界全体では、物流コストや資材価格などの高止まりが続いており、収益を圧迫した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>清涼飲料は、夏場の需要期に入ることに加え、猛暑の予想で需要が伸びると期待され、全体の販売量は例年を上回るとみられる。ただ、果実飲料は猛暑の恩恵は受けにくく、増産は一部の品目にとどまる見込み。清酒は夏場の不需要期となるが、生酒や冷酒など季節商品を中心に、前年並みの販売量を見込む。ワインは、県産ワインに対する需要の増加に伴い、堅調な推移が見込まれる。飲料業界全体では、各種コストの上昇分に対する価格転嫁の動きは鈍く、収益環境は厳しさが続く。</p>
	


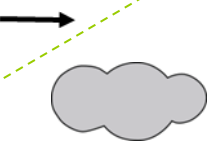
食料品製造 : 原材料価格の低下により収益環境の改善進む

<p>現況</p>	<p>味噌は、大手を中心に即席味噌や減塩・無添加など健康に配慮した商品のほか、味噌や麴からの派生商品の販売も増加した。乾燥食品は、市場規模が広がるシリアル向けの需要が拡大し、販売量は好調だった。加工肉は、無添加などの安全を訴求する商品の販売が堅調に推移した。大豆関連は、健康志向の高まりにより、関連する商品の売り上げが底堅かった。製粉は、売り上げが堅調に推移したことに加え、価格転嫁の効果などにより収益が改善した。コンビニ向け総菜は、地元産食材を用いた商品などの販売が順調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>味噌は、健康に配慮した減塩、無添加及び麴関連商品の販売は堅調を維持する見通しで、需要が減る時期ではあるが若干の持ち直しが見込まれる。乾燥食品は、シリアル向けなどが引き続き堅調に推移するとみられる。加工肉、大豆関連は、安全・健康などへの安定した需要から前年並みの売り上げを維持する見通し。製粉は、価格転嫁の効果などにより、収益の改善が続くとみられる。コンビニ向け総菜は、夏季の行楽需要により販売量の増加を見込む。全体として、円高に伴う原材料価格の低下などにより、収益環境の改善が進む見通し。</p>
	


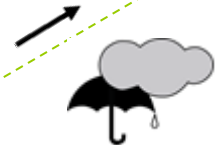
機械器具卸 : 自動車関連メーカーを中心に機械設備の需要は底堅く推移

<p>現況</p>	<p>中国の景気減速などを背景に、設備投資に慎重な企業もみられたが、政府の投資促進策の効果もあり、機械設備の需要は底堅く推移した。投資目的は機械の老朽化に伴う維持・更新が多いものの、人手不足に対応するための自動化ニーズも出ており、設備投資を後押しした。工具類をはじめ消耗品の受注に関しては、自動車関連メーカーを中心に安定していた。電設資材は、公共施設や製造業の生産拠点などの大型案件が少なく、価格競争は激化しており、これらが収益の下押し要因となった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>為替動向など先行きへの不透明感が増しているが、自動車関連メーカーを中心に、機械設備の需要は自動化のニーズもあり底堅く推移する見込み。また、猛暑の予想から、空調機器（エアコン）の商談が増えており、受注に結び付くことが期待される。工具などの消耗品に関しては、概ね横ばいで推移するとみられる。電設資材については、引き続き製造業などの大型案件が少なく、厳しい受注競争が続く見通し。</p>
	


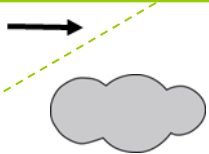
大型小売 : 夏物商品に期待するも、収益環境は厳しさが続く見通し

<p>現況</p>	<p>百貨店は、物産展などの食料品催事による下支えもあり、食料品は総じて堅調だった。一方、気温が高く変わりやすい不安定な天候が続いたほか、消費に対し慎重な姿勢がみられたこともあり、衣料品は低調だった。スーパーは、生鮮食品を中心に底堅く推移したほか、総菜や飲料、日用品などの売上げが増加した。一方、消費者の低価格志向が強まっていることに加え、新規出店による競合店間の価格競争が激しくなったことから、収益面は厳しさが続いた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>百貨店は、夏のクリアランスセールによる売上げが期待されるものの、衣料品の不振が続いていることもあり、効果は一部にとどまる見通し。また、中元ギフトは、例年より低めの価格帯に人気が集まっているものの、全体の売上げは、ほぼ前年並みとなる見通し。スーパーでは、生鮮食品を中心に堅調な推移が予想されるほか、梅雨明け後は猛暑との予報から、夏物商品は売上げの増加が期待される。一方、7月以降も新規出店が続くことから、業態を越えた競争になるとみられる。収益環境は厳しさが続く見通し。</p>
	


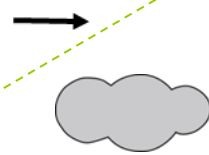
自動車販売 : 全体は弱含むも、輸入車は底堅い動き

<p>現況</p>	<p>普通車は、低燃費車の一部モデルが販売を伸ばしたものの、その他の車種や小型車の販売台数が落ち込み、全体の販売台数は前年をやや下回った。軽自動車は、小型車との競合に加え、一部メーカーの燃費不正問題による販売中止が影響し、低調に推移した。中古車は、低価格車や低燃費車を中心に前年並みの販売台数となった。輸入車は、新型車投入やモデルチェンジといった動きは少なかったものの、環境に配慮した車種の販売が堅調で、前年を上回る販売台数となった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>消費増税再延期の決定により、当初期待された駆け込み需要は見込めず、販売台数は伸び悩む見通し。普通車は、量販車のモデルチェンジを予定しているメーカーもあり、前年をやや下回って推移する見通し。軽自動車は、一部メーカーが販売再開を予定しており、販売台数はなお前年を大きく下回るが、マイナス幅は徐々に縮小に向かう見込み。中古車は、低価格車、低燃費車を中心に前年並みの販売台数が見込まれる。輸入車は、モデルチェンジの予定は少ないが、国産車との差別化を図り堅調に推移するとみられる。</p>
	


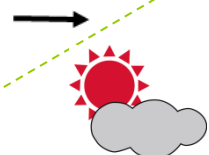
公共工事 : 大型工事が見込まれるも、事業者規模によって明暗分かれる

<p>現況</p>	<p>官公庁から発注される工事量は、前年同期には及ばなかったものの高い水準を維持した。発注者別にみると、国では三遠南信自動車道、独立行政法人等では高速道路といったインフラ関連の大型工事が前年同様多く発注された。県や市町村では、新県立大学三輪キャンパスをはじめ、学校関連の工事が目立った。大型工事が複数みられた一方で、工事件数の減少により新規受注が困難な中小事業者も多くあり、事業者規模によって受注面の好不調が分かれた。資材価格や労務費は前期と変わらず高値圏にあり、収益環境は依然厳しいものとなった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国では、道路関連工事が引き続き見込まれる。県では、新県立大学後町キャンパスなど学校関連の工事が、市町村では、庁舎の新築といった大型工事が予定されている。大型工事が工事量の多くを占めることから、事業者規模によって受注面の明暗が分かれるとみられる。業界の構造的問題とされている人手不足については、本年6月に国土交通省が技術者の配置要件や専任要件を緩和したことから、改善に期待が集まる。しかし、国主導の対策であることから県や市町村への波及には時間がかかる見通しであり、当期の影響は限定的とみられる。</p>
	


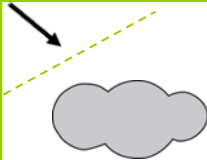
民間工事 : 新設住宅の受注量は前期と同程度を維持する見込み

<p>現況</p>	<p>民間企業の建設投資は、小売りや福祉といった業界から新設需要があったが、製造業は慎重な姿勢が続き、全体としては前期と同程度であった。新設住宅は、17年4月に予定されていた消費増税による駆け込み需要の動きが一部のみみられ、受注全体も増加した。相続税の節税策として賃貸住宅の建設需要は高く、受注量は堅調に推移した。労務費、資材価格は引き続き高値圏にあり、販売価格への転嫁も進んでいないことから、収益環境は厳しいものとなった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>民間企業の建設投資は、円高の影響等が懸念される製造業を中心に慎重になるとみられる。新設住宅については、消費増税の再延期により、期待された駆け込み需要はなくなるものの、良好な金利環境を背景に、受注量は前期と同程度を維持するとみられる。賃貸住宅は、相続税の節税策としての建設需要が今後も継続し、受注量は堅調に推移する見込み。労務費、資材価格は高値圏で推移するとみられ、収益環境は厳しさが続く見通し。</p>
	


旅客 : 夏季行楽シーズン迎え利用増加への期待高まる

<p>現況</p>	<p>期待された御柱祭と「真田丸」の集客効果により、高速バス利用は好調だった。また、「バスタ新宿」開業後、首都圏から各方面への高速バス利用も概ね好調で、燃料価格の安定もあり収益は改善した。一方、北陸新幹線の延伸効果には一服感がみられ、鉄道やバスへの乗客数は前年を下回ったが、前年の善光寺御開帳の反動減を勘案すれば、まずまずの水準といえる。外国人観光客は白馬方面、山ノ内温泉郷への利用が好調であった。タクシーは地元客の利用控えが続き、大型連休中とイベント開催時においても低調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>引き続き好調な「真田丸」の集客効果、夏場の避暑客の入込期待に加え、本年からの「山の日」新設に伴う山岳観光への注目もあって、旅客需要は堅調な伸びが期待される。一方、北陸新幹線の利用は安定的に推移するも、鉄道やバスなどへの利用は限定的と見込まれる。また、足元の円高基調が続けば、外国人観光客の伸び鈍化と国内旅行から海外旅行へのシフトにつながる懸念もある。なお、7、8月と長野市、松本市で大型イベント開催が予定されているが、シャトルバス利用が多く、タクシーへの波及は一部にとどまる見込み。</p>
	

貨物 : 貨物量は横ばいも、人件費と燃料価格の上昇が懸念材料

<p>現 況</p>	<p>品目による違いはあるものの、全体の貨物量は安定的な推移となった。自動車部品については、一部完成車メーカーの燃費不正問題の影響は限定的で、貨物量は底堅かった。建設機械は安定的な推移となった。一方、スマートフォンの需要減少により、電子部品は微減となった。ドライバーの拘束時間と運行時間の規制強化から、高速道路の利用や人員の確保が必要となりコストが増加したものの、燃料価格が安値圏で推移したことが収益を下支えした。人手不足から採用活動を続けたものの、十分な人数を確保できない事業者が多かった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>全体の貨物量は横ばいとなる見通し。飲料品は今夏の猛暑予測により、すでにメーカーの増産が始まっているため増加が見込まれる。自動車部品、建設資材は横ばい、機械関連は全体の減少が見込まれるが大型機械が微減にとどまる見通し。ドライバーの不足と規制対応に向けた人件費等のコスト負担が増加しており、適正運賃の収受が課題となる。また、安値圏が続いていた燃料価格も足元では上昇傾向にあり、収益環境は悪化する見通し。</p>
	

ホテル・旅館 : 夏季行楽シーズンに加え、真田丸の集客効果に期待

<p>現 況</p>	<p>ビジネス客による宿泊利用は堅調に推移した。観光客による利用は、天候に恵まれた大型連休を中心に個人客・団体客ともに順調であった。「真田丸」の集客効果により、上田地域では主として個人客による利用が好調だったほか、周辺でも団体客の利用が伸びた地域もみられた。外国人観光客は、アジア諸国を中心に花見などを目的とした利用が好調であった。安定した需要を背景に、施設の改修や料理内容の充実を図り、価格を適正な水準に見直したことで、収益が改善した企業もあった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>夏季行楽シーズンを迎え、観光客は都市部・観光地ともに順調に推移する見通し。「真田丸」の集客効果により、関係地域では引き続き個人客・団体客による好調な宿泊利用が見込まれる。また、「山の日」制定に伴う山岳観光需要の高まりや、各地で開催されるイベント等に伴い、宿泊利用の伸びが期待される地域もある。ビジネス客は都市部のホテルを中心に、引き続き堅調に推移する見込み。円高基調にある中、国内旅行から海外旅行へのシフトや外国人観光客への影響が懸念される。</p>
